

創星会

題字：星 猛 元静岡県立大学学長

★創星会とは★

静岡県立大学食品栄養科学部および大学院食品栄養科学専攻の卒業生・修了生と教員からなる会です。創立は平成7年11月4日で、現在会員数は約1,800名となりました。本会は、会員相互の連絡協調および会員と母校との連絡をとりまとめ、会員や母校の発展のために活動しております。「創星会」という名称は、本学部の独創性を反映させ、また、卒業生の中からスターとなるような人物を生み出したいという思いから、諸先生方が命名してくださいました。

☆ご挨拶☆

静岡県立大学学長 木苗 直秀

同窓会員の皆様には、お元気で新春をお迎えのことでしょう。

さて、食品栄養科学部では、従来の食品生命科学科、栄養生命科学科に加え、平成26年に開設した環境生命科学科に24名の新入生が入学し、講義や実習、クラブ・サークル等で躍動しております。本学の朗報としては、昨年9月に文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」に採択され、『ふじのくに「からだ・こころ・地域」の健康を担う人材育成拠点』をテーマとして活動を始めました。本事業は、学生が講義やフィールドワークを通して静岡学を学び、教職員は産業の活性化や社会人教育等を通して地域創生、すなわち「元気で夢のある街づくり」を積極的に進めるものです。モデル地域の静岡県、静岡市、牧之原市とともに健康寿命の延伸、地域創生をめざして今後5年間の活動を大いに期待しています。

ところで、私は2期務めさせて頂いた学長職を27年3月末日をもって退任致します。長い間、皆様には大変お世話になりました。ここに深謝するとともに、本学同窓会員の皆様の益々の御発展をお祈り申し上げます。



○「木苗学長 感謝のつどい」の御案内○

木苗学長は平成27年3月で学長の任期を終えられますので、全学で感謝のつどいが開催されます。

事前申し込みは不要ですので、皆様の御参加をお待ちしております。

平成27年2月19日（木）

第1部 学長最終講義 16:30~17:30 大講堂

第2部 学長を囲む会 18:00~20:00 学生ホール

※ 第2部にご参加の場合は、1人2,000円を受付でお支払い下さい。

○「大島 寛史先生 最終講義」の御案内○

大島教授は平成27年3月で定年退職されますので、下記日程で最終講義が開催されます。

事前申し込みは不要ですので、皆様の御参加をお待ちしております。

平成27年2月20日（金）15:30~16:30 看護学部棟4階 13411講義室

2015年1月1日発行

第17号

発行者 創星会

〒422-8526 静岡市駿河区谷田 52-1

(静岡県立大学内)

(食品栄養科学部 公衆栄養学研究室)

TEL: 054-264-5832

HP: http://www.geocities.co.jp/us_souseikai/

E-mail: souseikai@u-shizuoka-ken.ac.jp

☆「食品環境研究センター」と「茶学総合研究センター」が開設されました☆

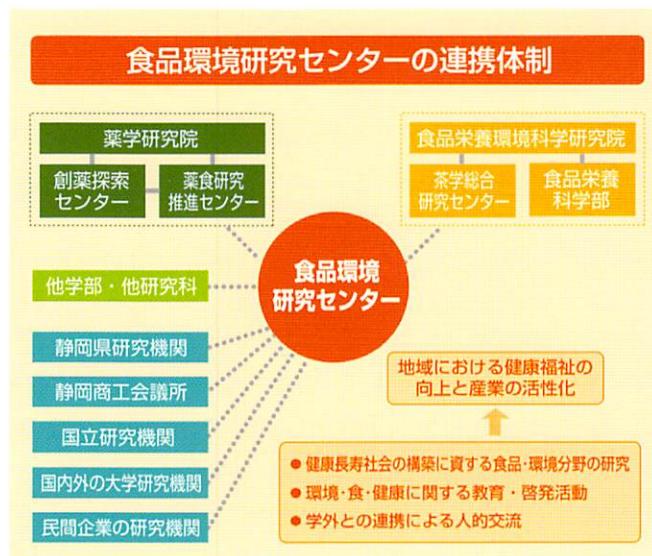
平成 26 年 4 月 1 日に大学院食品栄養環境科学研究院の附置施設として、「食品環境研究センター」と「茶学総合研究センター」が開設されました。

食品環境研究センター

超高齢社会を迎えた今、食と健康に関連した環境問題の解決に貢献できる人材の養成が不可欠になっています。この課題に大学として取り組むため、環境科学研究所を平成 25 年度をもって発展的に解消し、4 月から食品栄養科学部に新たに環境生命科学科を設置するとともに、研究体制をより強化すべく食品環境研究センターを開設しました。

構成メンバー

- センター長 : 若林敬二
副センター長 : 熊澤茂則
センター研究員 : 小林裕和、坂田昌弘、谷 晃 他



本センターは、地域における健康と福祉の向上、および地域産業の推進を目指して、「食と健康」や「環境と健康」に関連した研究とともに地域の人達への教育・啓発活動などを行っています。

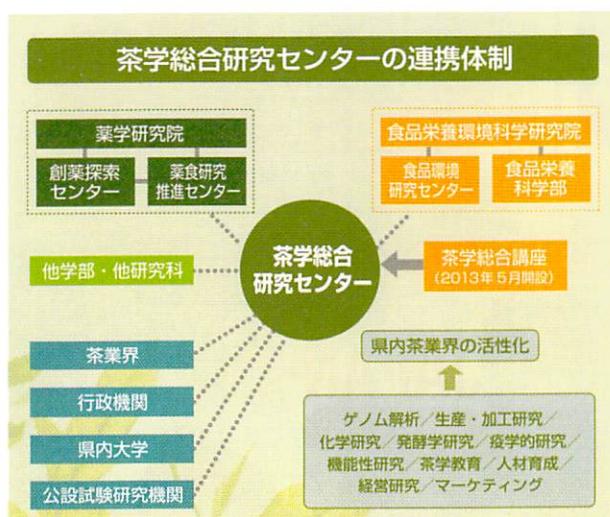
茶学総合研究センター

平成 25 年 5 月に日本で初めて開設した茶学総合講座の拠点機能をより一層強化するために茶学総合研究センターに名称変更しました。

構成メンバー

- センター長 : 中村順行
副センター長 : 下位香代子
センター研究員 : 小林裕和、岩崎邦彦、
海野けい子、斎藤貴江子 他

本センターは、本学の茶に関する研究情報を各専門分野を超えて一元化を図るとともに、県内の他大学や研究機関をはじめ行政・茶業界とも連携して茶業振興に寄与することを目的とするほか、健康面では茶の機能性及び疫学に関する研究をはじめ、学生に対しても茶学教育を行い人材育成を図っています。



☆研究室紹介☆

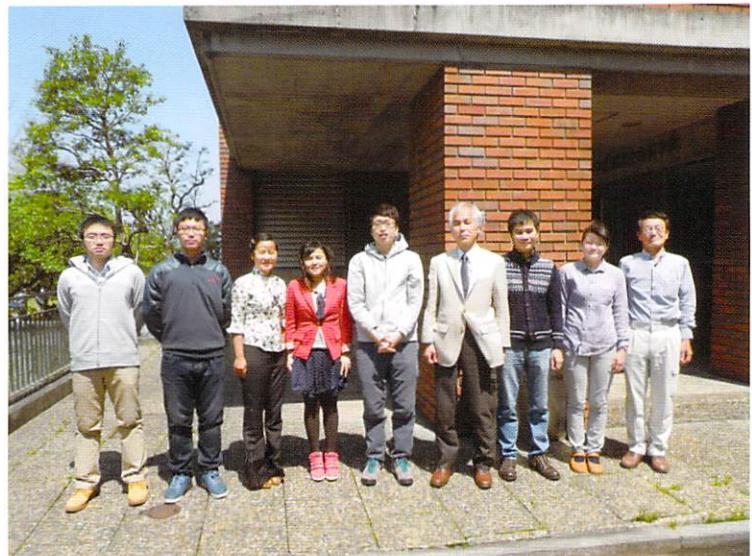
今年度は、食品栄養科学部に環境生命科学科が新設されました。そこで今回は、環境生命科学科の先生の方々に研究室の紹介をしていただきました。

研究室の近況（水質・土壤環境研究室 坂田 昌弘）

2005年4月に相馬光之教授の後任として、環境科学研究所の水質・土壤環境研究室に着任して以来、早10年目を迎えております。今年4月からは、食品栄養科学部に新設された環境生命科学科の教員として、新たな一步を踏み出しました。現在研究室には、主任の私、光延 聖助教（2008年11月に着任）、大学院生6名（博士前期5名、博士後期1名）、客員共同研究員1名が在籍しています。当研究室は、中国（2名）やベトナム（3名）からの留学生が多く、両国の環境汚染に対する彼らの関心の高さが伺えます。

現在、私たちが食する農作物や魚介類の安全性が重要な課題となっています。人間活動によって環境中に放出された有害化学物質が、水や土壤を介してそれらの食品を汚染する問題もその一つです。当研究室では、重金属等の有害微量元素を対象にして、環境中の濃度や安定同位体比を測定し、それらに基づいて発生源や環境中の動態を調べています。具体的には、最近PM2.5の問題で国民の関心が高まっている中国大陸からの越境汚染や、駿河湾における食物網を介した生物濃縮などの課題について研究を進めています。さらに、大型放射光施設を利用して、環境中の重金属の化学状態（酸化数等）を決定することにより、汚染のメカニズム解明を目指しています。これらの研究を通して、有害化学物質のリスク評価をはじめ、環境モニタリングや対策技術の開発に貢献したいと考えています。

（2014年執筆）



（右から4番目が坂田教授、左隣が光延助教）

研究室の近況（植物環境研究室 谷 晃）

本研究室は2007年に現主任の谷 晃が着任した後、誕生しました。また、歴史の浅い研究室ですが、スタッフ2名と大学院生で楽しんで研究やその他の活動を行っています。2007年度以降、14名の博士前期課程修了生と2名の博士後期課程修了生を世に送り出しました。

研究室の研究目標は、植物と環境間の物質のやり取りを明らかにし

- ① 植物の物質交換が地域環境および地球環境におよぼす影響
- ② 温度、光、二酸化炭素濃度、汚染ガスなどの環境要因が植物（作物や樹木）の生育におよぼす影響

を解明することです。特に、植物が生産し放する揮発性テルペン類や吸収する汚染ガスを高精度にモニタリングする計測システムを開発し、ガス交換の動態や環境影響を調べてきました。また、野菜工場に関する栽培技術の開発に取り組んでいます。フィールドでの測定（農地や森林）が非常に多いのが特徴です。

研究室には、現在主任（准教授）1名、助教1名、秘書1名、大学院修士課程2名、客員共同研究員3名が在籍し、日夜研究を続けています。研究で相談等あれば遠慮なく連絡してください。最後に卒業生や修了生の皆様のご活躍を祈念しています。



（谷 晃准教授） （塩澤助教）



水田による汚染ガス吸収量の測定

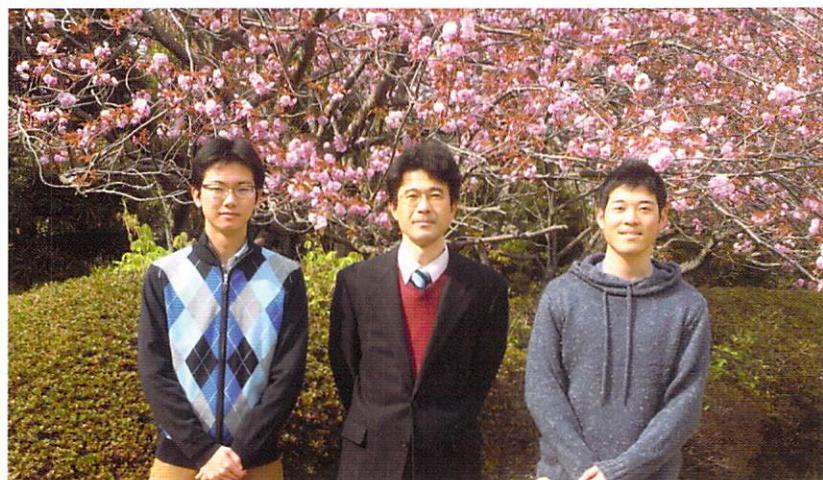
研究室の近況（物性化学研究室 牧野 正和）

はじめまして。2014年4月より新設されました環境生命科学科 物性化学研究室に所属する牧野正和（主任教員）です。

本研究室は、1991年4月に本学大学院生活健康科学研究科環境物質科学専攻内に大学院専任の「機器分析研究室」として開設され、神谷護先生が初代教授として着任されました。1997年4月には、大学付置研究所として環境科学研究所が開所され、それに伴い「物性化学研究室」として改名しました。また、2003年3月に神谷先生が定年退官された後、同研究室の学内講師であった牧野が同年4月より主任教員（当時：助教授）として昇任し、現在に至っています。

2003年からは、有機リン系殺虫剤の環境における変化や動態の解明に加え、遺伝子組み換え酵母を用いた生物試験系も立ち上げ、さらにドッキング計算等の手法も取り入れた総合的な化合物の物性・生体作用能評価を行ってきています。その間、寺崎正紀助手（法人化後は助教）（現：岩手大学人文社会科学部准教授：2003～2013年度）の協力も受けながら、のべ9名の修士修了生と2名の博士学位取得者を世に送り出すことができました。現在、准教授1名、大学院修士課程2名が研究室に在籍し、日夜研究を続けています（写真は平成26年度在籍者筆者は中央）。

食品栄養科学部の一員となり、「報（告）・連（絡）・相（談）と挨拶」を礎とする学生教育と、環境の中で農薬が示す非意図的生体・生態影響の解明を目指した研究を一層進めていきたいと考えておりますので、宜しくお願ひいたします。最後に、卒業生や修了生の皆様の益々のご活躍を心より期待し、再びお会いできる日を楽しみにしております。



（写真中央が牧野准教授）

研究室の近況（環境生理学研究室 唐木 晋一郎）

環境生理学研究室は、1996年に桑原厚和・現教授が着任して以来、今まで一貫して消化管の生理機能調節に関する研究を続けてまいりました。その間、1999年までを鈴木睦昭・現・国立遺伝学研究所・知的財産室長、1999年～2003年までをDr. Michał Ceregrzyn、2003年～現在までを唐木晋一郎が助教として着任しています。そして5名の博士号取得者を輩出し、2名が国内大学助教、1名が米国大学ポスドク、1名が企業研究者、1名が臨床医として活躍中です。現在は、客員共同研究員として鈴木裕一・現・白百合女子大学教授（食品栄養科学部名誉教授）、高橋みどり博士（現・静岡北高等学校）が、学生には社会人博士課程1名、博士前期（修士）課程1名が在籍しています。

消化管は、体内的外部環境として、生体の生命維持に必要なエネルギーや生体構成成分を生体内（内部環境）に取り込むための器官として存在しています。そして、消化管粘膜は管腔内の食物、常在細菌（腸内細菌）、自己由来の様々な化学物質を受容し、腸管神経・内分泌・免疫系の働きにより、消化管運動、上皮膜輸送（水／電解質吸収／分泌、消化酵素分泌）、そして粘膜免疫系を制御することで、その目的を果たしています。環境生理学研究室では、このような消化管の生理機能調節機構に関する基礎研究を通じて、機能性／炎症性腸疾患の発症原因解明や、治療・予

防に役立つ薬剤や食品の開発につながる知見を広く発信することを目指し、日々、研究に邁進しています。



（桑原教授）



（唐木助教）

研究室の近況（大気環境研究室 雨谷 敬史）

大気環境研究室は、2号棟の5階にあり、大気中の有害物質についての研究を行っています。空気は食料や水と同様に身体の中に取り入れるものであり、その質が問われています。研究室主任となった1998年頃は、空気中のダイオキシン問題が盛んに議論されていました。その後、シックハウス問題、アスベスト問題などが社会問題となり、現在ではPM_{2.5}（空気中の微小粒子状物質）問題が持ち上がっています。問題に対処するためには、どのような物質がどこにどのくらい存在しているかをまず把握する必要があります。本研究室では、ヒトの健康に直接影響を与える個人曝露（一人一人がどの程度有害物質を吸い込んでいるか）を測定する手法を開発し、実際に調査を行うなどの研究を行っています。

現在の研究室メンバーは、小生の他、三宅助教、博士課程の学生1名、修士課程の学生5名が在籍しています。静岡県環境衛生科学研究所の久米部長も客員教授としてご参加頂いています。

今年度から3年間、厚生労働科学研究費の助成を受けて、室内環境中の未規制物質の網羅的解析の研究を開始致しました。室内環境中にあって、変なにおいがするとか、目などへの刺激があるなどの商品等がございましたら、是非ご連絡下さい。研究の中で、何が問題かを解明していきたいと考えています。どうぞよろしくお願ひ致します。



（写真 前列中央が雨谷准教授、右隣が三宅助教）

研究室の近況（環境微生物学研究室 谷 幸則）

2008年6月に環境微生物学研究室の准教授を拝命いたしました。本年4月の環境生命科学科新設に伴い、食品栄養科学部の一員として学部教育に参加し、学部1年生の「化学実験」や「分析化学」を担当させていただき、学部教育の大変さを痛感しております。

現在の研究室では、私と内藤博敬助教の元で、博士課程1名（中国留学生）、修士課程3名（1名が中国留学生）の学生がそれぞれの研究に励んでいます。また、共同客員研究員が2名、本年3月に博士号を取得した常佳寧さんが非常勤研究員として研究室に在籍しております。

当研究室では、水系微生物を中心とした研究テーマで研究をおこなっており、具体的には①マンガン酸化菌による廃水からのレアメタル回収と資源化、②浜名湖や佐鳴湖、宍道湖などの汽水湖における光合成微生物の分布や生態系への影響、③エビ養殖における病原微生物の除去や動態に関する研究などが挙げられます。今後ますます顕著化すると考えられる水資源不足、温暖化などに起因した食料生産への影響を念頭に、これらの研究を進めていきたいと考えております。今後ともよろしくお願ひいたします。

（2014年執筆）



（後列右から2番目が谷幸則准教授、左隣が内藤助教）

研究室の近況（生態発生遺伝学研究室 小林 亨）

当研究室は、2013年4月に大学院薬食生命科学総合学府 環境科学専攻 生態発生遺伝学研究室としてスタートしました。2014年4月より環境科学専攻および、食品栄養科学部 環境生命科学科配置となっています。

当研究室は、生殖生物学を基盤とした研究室です。雌雄性の決定機構は種によって実に多種多様です。遺伝的に決定される場合や環境要因による性転換現象にみられるような性の「揺らぎ」によって雌雄性の決定がされる場合もあります。メダカはゲノム解読が終了し、遺伝子のカタログ化がなされ、多数の遺伝系統があり、かつヒトの疾患の原因遺伝子を特定することができる日本で開発された優れたモデル動物です。またメダカでは系統間で温度や環境化学物質に対する応答性（性の「揺らぎ」等）に差異が認められます。私たちは、モデル動物としてメダカを中心据えて性決定の分子制御機構の詳細および、遺伝的脆弱性による系統間の環境要因に対する応答性の差異を遺伝子レベルで詳細に解析することにより、その共通・多様性を明らかにすることを目指しています。これらの成果を基に水産有用種の保全や性統御技術開発に貢献したいと考えています。

現在、研究室には教授1名、研究補佐員1名、大学院博士課程2名が在籍し、日夜研究を続けています。



（写真 左端が小林亨教授）

研究室の近況（生体機能学研究室 下位 香代子）

2001年に富田多嘉子先生の後任として着任し、早13年の月日が経ちました。私は、着任前は食品栄養科学部の食品衛生学研究室で助手をしておりましたが、この度、環境生命科学科という新学科が本学部に設立され、古巣に戻ったような気がしております。本学部の多くの卒業生、修了生の皆さん、覚えていらっしゃいますでしょうか？（なつかしいです！）この13年の間に、助教だった池田先生、榎原先生は准教授として他大学にご栄転され、現在、3代目の保田助教が昨年より着任されています。

さて、当研究室では、「21世紀は予防がキーワードと据え、「環境・社会的ストレスの生体への影響と生命を衛るために予防に関する研究」を行っています。

現代は24時間型社会となり、本来光を浴びないはずの時間帯（暗期）に光を浴びる人が多くなっており、生体リズムの搅乱が重篤な社会問題となっています。このような光環境によるストレス、環境化学物質によるストレス、社会的ストレスなど、私たちは毎日、様々なストレスに曝されています。環境・社会的ストレスが過剰かつ慢性的になるとがん、肥満、心筋梗塞など様々な疾病を誘発します。そこで、カテコールアミンやコルチゾールなどのストレスホルモンのがんや血管系疾患に対する進展機序について、また、集団飼育における社会的ストレスが行動に与える影響について、マウスやヒト培養細胞を用いて検討するとともに、食品成分によるその予防について検討しています。さらに、明期と暗期における環境化学物質の生体影響の違いについて、時間生物学的視点から研究に取り組んでいます。

今春は、4名の修士、1名の博士が修了し、食品系会社、検査機関、静岡県、再生医療関連ベンチャー、国立研究機関などに就職っていました。今後の活躍を期待しています。今年度は1名の修士が入学し、補助研究員2名の方が加わってくれました。そのうちの1名は、本学部卒業生-2期生です。誰かわかりますでしょうか？（写真）？8月の第3土曜日に毎年、研究室の同門会を開催していますが、多くの皆さんが出でて楽しいひとときを過ごしています。昨年の同門会では、私が還暦を迎えたためお祝いをしてくださいり、皆さんの気持ちが大変嬉しく感謝しております。修了生の皆さん元気な笑顔を見ると力が湧いてきます。皆さんからエネルギーをもらっているんですね、きっと。（2014年執筆）



平成26年4月 新入生を迎えて
(右から3番目が下位教授・右端が保田助教)

大学を巣立つ皆さんへ贈る言葉：しなやかに、したたかに、そして、たおやかに。

研究室の近況（光環境生命科学研究室 伊吹 裕子）

光環境生命科学研究室を担当しています伊吹です。食品栄養科学部では、これまで放射化学の講義を行ってきましたので、覚えて下さっている方もおられるかと思います。放射化学では基礎的な放射線についての講義をしていますが、研究室では、紫外線を研究の主軸としています。紫外線の生体影響は過去に多くの研究がなされ、もたらされるDNA損傷、修復については詳細な部分まで解析がされています。当研究室ではDNAが巻き付くヒストンという蛋白質に注目し、化学物質との複合暴露など、新たな視点からその影響を研究しています。紫外線は体内でビタミンDを作る物理的因子であり、食品・栄養とも深いかかわりがあります。食品栄養科学部の一員となりましたので、食品摂取の影響や食品成分による紫外線防護などにも研究の領域を広げていきたいと考えています。現在は、私（准教授）、学生3名（博士1名、修士2名）、客員共同研究員1名の小さな所帯ですが、家庭的な雰囲気の中、皆で協力しながら研究に励んでいます。



(写真 右から2番目が伊吹准教授)

☆新任教員の紹介☆

下山田 真（教授：食品分子工学研究室）

平成26年4月1日付で着任しました下山田真と申します。私は東北大学大学院農学研究科で博士を取得後、13年にわたって岐阜大学農学部（現応用生物科学部）に助手、助教授として勤めておりました。その後、仙台市にあります県立の宮城大学に9年勤めました。今回静岡県立大学へ赴任するにあたって、新しい場所へという気持ちとなじみの場所へという気持ちが半々で参りました。専門は食品加工学、食品工学です。学生時代より一貫して大豆をターゲットとしております。大豆は機能性豊かな食材であると同時にタンパク質源としても有望で、食糧不足が叫ばれる昨今、その味を含めた品質の改良は必須のことと思っています。肉には及ばないにしても大豆を食べて、おいしくタンパク質の補給ができる事を願って、研究を進めております。創星会の皆様にはご支援賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。



本間一江（助教：栄養生理学研究室）

平成25年10月1日に、栄養生理学研究室の助教に着任いたしました本間一江と申します。私は、平成18~19年度に本学で修士課程を過ごし、その後、治験実施医療機関などで勤務しておりましたが、ご縁あって約5年半ぶりに同研究室に戻って参りました。治験関係の仕事は、データの信頼性を確保するための考え方方が身につくと同時に、実際の患者さんと接する職場です。現在の専門は分子栄養学になりますが、基礎研究をしながらもその成果を人の健康に役立てるイメージを持って取り組むことで、管理栄養士として臨床の現場を目指す学生にも、何か伝えられることがあると考えております。



研究者、教員としてはスタートをきったばかりで未熟ではありますが、人の健康と本学の発展に少しでも役に立てるよう努力して行きたいと思っております。創星会の皆様にはご指導ご支援賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

中村俊之（助教：食品化学研究室）

平成25年12月1日に食品化学研究室に助教として着任いたしました中村俊之と申します。私はこれまでに、食品成分の機能性や安全性について研究を行っており、特に、ワサビなどに含まれるイソチオシアネート類の標的分子の探索や、タマネギや大豆に含まれるポリフェノール類の吸収・代謝について研究を行って参りました。現在は、温度感受性イオンチャネルであるTransient Receptor Potential (TRP)受容体を活性化することで肥満症の改善が期待できる食品成分の探索を行っております。食品栄養科学部では、研究だけでなく教育にも励み、食と栄養の専門家として社会に貢献できる人材の育成に努めたいと思っております。加えて、大学や地域に貢献できる行事に積極的に取り組んで行きたいと思っております。創星会の皆様には、ご指導・ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



☆第10回創星会総会を開催しました☆

前回の会報でご案内いたしました第10回創星会総会・懇親会を平成25年11月9日、静岡グランドホテル中島屋にて開催いたしました。

第1部は総会及び卒業生による講演会を行い、学部長の合田先生より食品栄養科学部の近況を、大学院研究院長の小林裕和先生より大学院薬食生命科学総合学府の近況についての講演をしていただきました。また、学部卒業生及び修士修了生の4名の方には現在のお仕事や研究に関する貴重なお話をいただきました。

懇親会では木苗学長をはじめ、退官された高瀬先生、大石先生、竹石先生、伊勢村先生、酒井先生にもご列席を賜り、卒業生、修了生および現役学部生に至る約100名の方に出席いただきました。

久しぶりに会う旧友や恩師との親睦を深め、楽しいひとときを過ごすことができました。さらに現役生は先輩方との交流を図れる良い機会となりました。



演者の方々



【住所を教えて下さい】

創星会会報を送付した際に、返送される場合が多数ございます。住所や名字等の変更がございましたら、創星会HPのトップページに「連絡先の登録・変更」欄を設けておりますので、そちらから変更登録をお願いします。

【マーリングリストにご登録下さい】

平成23年に創星会マーリングリストを立ち上げました。学内情報、講演会情報、就職情報等、有用な情報を発信してまいりますので、是非ご登録下さい（携帯メールアドレス、PCメールアドレス、いずれでも登録可）。

創星会HPの「連絡先の登録・変更」欄から登録できます。

☆会計中間報告☆ (平成26年12月1日現在) 会計 大石 里夏

年月日	項目	収入	支出	残高
	繰越			5,874,255
H25.8.6	はがき代		76,000	5,798,255
H25.9.7	CD(データ記録用)		1,480	5,796,775
H25.9.11	郵送料(会報誌送料)		221,050	5,575,725
H25.9.11	セロテープ		210	5,575,515
H25.9.11	会報・封筒印刷費(鈴与システムテクノロジー、振込手数料込)		181,125	5,394,390
H25.9.11	郵送料(会報誌送料)		10,150	5,384,240
H25.10.1	利子(H25.10.1)	667		5,384,907
H25.10.3	アルバイト代(H25.8～H25.9×2名)		60,736	5,324,171
H25.10.4	学部生入学時同窓会費(H25年度秋入学生)	29,860		5,354,031
H25.11.6	記章		5,980	5,348,051
H25.11.8	アルバイト代(H25.10×2名)		19,136	5,328,915
H25.11.9	創星会謝金、アルバイト		59,000	5,269,915
H25.11.9	第10回創星会懇親会補填分		331,870	4,938,045
H25.12.6	郵便代		140	4,937,905
H25.12.6	アルバイト代(H25.11×2名)		42,432	4,895,473
H26.1.10	アルバイト代(H25.12×1名)		4,160	4,891,313
H26.3.31	創星会用卒業アルバム代		10,500	4,880,813
H26.4.1	利子(H26.4.1)	597		4,881,410
H26.5.7	アルバイト代(H26.4×1名)		4,160	4,877,250
H26.5.7	H26年度学部生入学時同窓会費	2,789,856		7,667,106
H26.5.28	ホームページ月管理費(H26.6～27.5)(振込手数料込)		18,416	7,648,690
H26.6.12	ホームページ画像追加費(振込手数料込)		4,416	7,644,274
H26.6.12	アルバイト代(H26.5×2名)		8,374	7,635,900
H26.7.24	はばたき寄金へ寄付		20,000	7,615,900
H26.10.1	利子(H26.10.1)	849		7,616,749
H26.10.7	学部生入学時同窓会費(H26年度秋入学生)	29,856		7,646,605
H26.12.3	アルバイト代(H25.9～11×1名)		4,992	7,641,613